

もも・ネクタリン特報

H30. 5. 25 No. 5
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

もも・ネクタリン せん孔病対策

せん孔細菌病の発生が心配される園地では、通常展着剤に代えて固着性展着剤アビオンEの1,000倍を使用する。
*アビオンEに代えて、KKステッカーの3,000倍でもよい。*KKステッカーは調合液を攪拌させながら、最後に加用する。

もも

「せん孔細菌病対策 強化」防除のみ記載しております

*通常散布は、ももネクタリン特報No.4の第6回定期防除をご覧ください。

せん孔病対策 第7回 防除

散布時期：5月31日～6月8日（第6回散布から10日後）

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤 20ml
マイコシールド 66g（21日前、5回）

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病 10a 当り散布量： 600ℓ

注意事項：カメムシ類の発生園は、スミチオン水和剤40の1,000倍(3日前、6回)を加用する。

◎ もも次回散布予定 通常散布：第7回 6/11～20 セン孔病対策強化：第8回 6/11～20

ネクタリン

「特別散布」および「第7回 定期防除」を記載しております

特別散布（せん孔病対策）

散布時期：5月31日～6月8日（第6回散布から10日後）

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤 20ml
マイコシールド 66g（28日前、5回）

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病 10a 当り散布量： 600ℓ

第7回 定期防除

散布時期：6月6日～18日（前回散布から10～15日後）

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤 20ml
劇 デランフロアブル 100ml（14日前、2回）
劇 ダーズバンDF 33g（14日前、2回）
スターナ水和剤 100g（7日前、3回）

散布日	6月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、(灰星病)、(ホモブシス腐敗病)、シンクイムシ類、ハマキムシ類

10a 当り散布量： 600ℓ 劇 マークの農薬をご購入の際は、印鑑が必要です

注意事項：カメムシ類の発生園は、ダーズバンDFに代えて、アルバリン顆粒水溶剤2,000倍(前日、3回)を使用する。

次頁には管理情報が掲載されております。必ずご覧ください

1、仕上げ摘果の時期

・満開 40～50 日後頃に実施（本年は、5 月 2 5 日～6 月 1 5 日頃を目安に終了）

* H30 白鳳満開 4 / 1 7

2、仕上げ摘果の要領

結実量が少ない場合は、品質・着果位置が悪くても基準量を確保する。

- ・成木 10 a 当りの目標着果量は、13,000～15,000 果とする。樹勢が弱い場合は、着果制限する。
- ・残す果実は、大きくて扁平な果実を残す ・着果位置は、結果枝の側方、または下方の果実を残す（上方は摘果する）
- ・長果枝（30cm 以上）が 2 果、中果枝（10～30cm）が 1 果、短果枝（3～10cm）が 6～10 枝に 1 果着果させる（*図 1 参照）
- ・最終着果量は、品種や樹勢等を見極めて決める（*図 2 参照）
- ・順序は、白鳳系・あかつき・なつっこ・白根 → 川中島白桃・ネクタリン → 黄金桃とする（黄金桃やファンタジアは生理落果が多いためやや遅めに実施する）
- ・葉枚数は、モモが 1 果当り 40～60 枚、ネクタリンが 30～40 枚必要

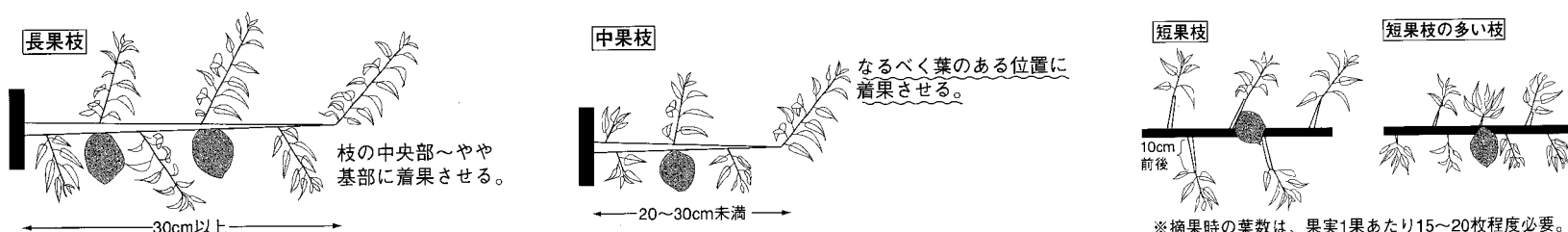
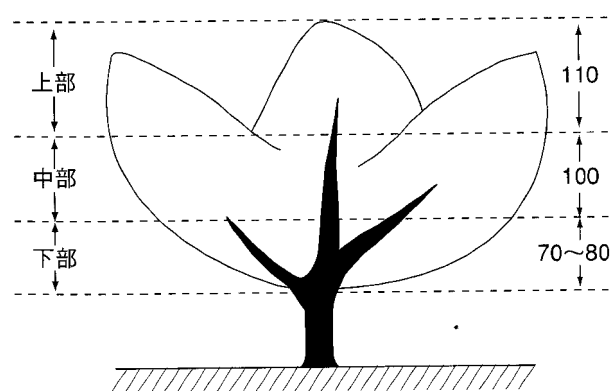


図 1 結果枝別の最終着果量

3、仕上げ摘果の留意点

- ・大きくて丸味のある果実は、双胚果の可能性が高く、生理落果発生の要因にもなるので極力摘果する（*図 3 参照）
- ・毎年生理落果や双胚果が多い園や品種では、仕上げ摘果でも多めに残しておき、袋掛け前に修正する
- ・無袋栽培は、枝葉の繁茂によって、果実が見えにくいため着果過多や着果ムラになりやすいので、枝を持ち上げて下方からよくみて実施する。



樹冠中部の着果量を100とした場合

- ・玉張りの悪い下部は70～80程度と少なめにする。
- ・玉張りのよい樹冠上部は110程度と多めに残す。

図 2 樹冠部位置別着果程度

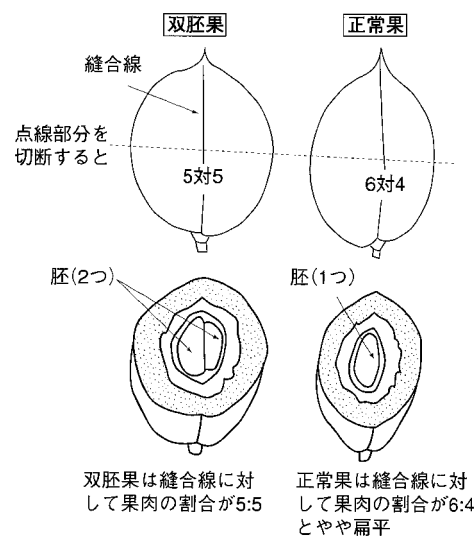


図 3 双胚果と正常果の違い

4、夏季管理

・日焼け防止

幹の太さが 10cm を超えてくると、日焼けをおこしやすくなるので、農業用ペンキやフジホホワイト等をたっぷりと塗布する。また、弱い新梢は日焼け防止に残しておく

・摘心

背面から発生した徒長枝を 5、6 月に基部から葉 4～5 枚程度で切除する
次年度の結果枝作りや葉枚数の確保、日焼け防止にも繋がる

・ねん枝

次年度への優良な結果枝作りのために必要

長さ 30cm 以上となったものから順次行う（*右図 参照）

・誘引

幼木や若木に対して、主枝や亜主枝養成のために行う

樹液の流動が盛んになり、枝がやわらかくなる夏季に実施する

